神奈川県立平塚支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

審議会等名称	第３回神奈川県立平塚支援学校　学校運営協議会		
開催日時	令和７年２月 27 日（木）　午前９時 30 分～11 時 40 分		
開催場所	校長室		
出席者	運営協議会委員等５名（本校校長含む） 事務局教職員　７名		
次回開催予定日			
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
会議経過	１　開会 ⑴　会長あいさつ ⑵　校長あいさつ ２　報告・協議 ⑴　学校評価部会について ⑵　切れ目ない支援部会について ⑶　防災部会について ⑷　インクルハブ湘南との活動について ３　意見・質疑応答等 ⑴　学校評価部会について ○　食べ方の食形態の細かい課題とは何か。その判断を誰がするのか。 ⇒　初期、中期、後期食について、それぞれ基準内に入って提供はされるが、普段、中期食を食べている子どもが、日によって、後期よりの中期食が提供される場合、初期食を提供するなど、感覚に頼った判断を迫られることがある。 検食は校長がするが、判断に迷う時はＳＴと相談しながら行っている。 ○　自分からなかなか発信ができない子どもの支援はどのような支援をしているのか。学校が行う支援に保護者としてどのように参加してよいのか歯がゆく感じることがある。 ⇒　わずかな発信を教員がキャッチし、気持ちを代弁するなどをすると、発信が意欲的になる。また、ＩＣＴ機器の活用によって、映像や代読機能を使えるようになるとより自発的になってくる。 ○　子どもの進路について、必要な情報が様々な視点で保護者		

	に届くように助言がほしかった。 ○　コミュニケーション能力を高めるために、担任以外との関わりを増やすこと等について知りたい。 ⇒　高等部で各作業班に分かれて活動をしている際に困ったときは、担任を探して相談をするのではなく、近くにいる教員に相談するように指導をしている。また、小中学部の場合には応援の教員にも食事の介助に入ってもらい、様々な人に慣れるようにしている。 ○　社会に出てから知らない人とのコミュニケーションが可能となるよう重点的に指導をしてほしい。 ○　担任以外の教員が何を指して、それを深めていこうとしているのかが見えるようになるとよい。また、地域との協働の中で、様々の人々との関わりも資源になる。児童生徒が困らないように進めていただきたい。 ○　保護者のアンケートの回収率 49%をどのように捉えるのか。保護者を学校の教育活動に巻き込んでいくことを進めていただきたい。平塚は「分からない」の回答が特徴的にあまりない。保護者にとって、自身の子どもがどのように活動し、それにどのような意味があるのかというところまで学校が落とし込んでいない。学校の支援・指導を縁遠いものに感じさせてしまっている。 ○　学校評価について、できている、できていないが何を指標にするのか明確にすることが重要である。各部会、各指針やねらい、タイムラインに対する責任、タスク、ゴール評価を明確にし、教員も児童生徒も頑張ってほしい。計画から評価までを分かりやすくしたらよい。 ⑵　切れ目にない支援部会について ○　障害児を受け入れる歯科医院の閉院について、キャッチしていただくとともに、フォローをしていただき、ありがたかった。また、食べ方相談については、年２回あるとうれしい。 ○　学校と地域との認識のずれとは何か。 ⇒　子どもができると教員が思っても、一般の方の捉えではできないと思ってしまうことである。 ○　卒業するまでの訓練段階、教育段階において、社会とのギャップをなくすための方策は何か。 ⇒　重度の方に対しては一人でも時間が過ごせるようにするためにＩＣＴ機器等の活用ができるように取組んでい

	る。 ○　離職する方はどれくらいいるのか。 ⇒　年に２～３人いるかいないかである。 ⑶　防災部会について ○　初動マニュアルについてはよくできていた。少し改良を加える所の意見はあったが、全体としては見やすいものであった。また、自治会からお願いしたことについても触れられていた。寺田縄自治会よりも飯島の自治会が学校に近いので、共同で防災会議が開けたらよい。 ○　マニュアルの保護者対応部分については先日配付されたが、家庭内で紛失してしまうことも想定して個人面談の際に記載内容を確認することで、自分事として捉えることができるようになる。 ○　大学でも障害のある学生に対し、避難所も含めて災害時にどのようにするのかを個別に確認をしている。 ○　来年度はどのような展開を検討しているのか。 ⇒　年度末に新旧の防災危機対策班の班員向けに発電機の使い方の研修を検討している。また、早い時期に緊急参集要員向けの対応に係る研修を検討している。 ○　部会としての構想、次年度に向けてはどのようにするのか。今年度のマニュアルの作成については一定程度到達できたが、寺田縄や飯島地区との連携を深めることも考えられる。 ○　安否確認システムの見積もりはいつ届いたのか。 ⇒　先日届いた。初期費用に６万円に加え、毎年費用を支払うことになる。費用の出処が課題である。 ⇒　学校長会議でも話題になっていて、来年、試行で導入する学校もある。また、県に予算を要望していくべきという話しも出ている。 ○　安否確認システムを実際に使っているところはどのようになっているのか ⇒　スクールバスが遅延した場合、メール配信サービスを使う必要がなくなり、保護者が自身の携帯でバスの位置情報を確認することができる。システムがないため、保護者からバスの携帯電話番号を教えてほしいと依頼されるが、介助員が業務をしながらの対応になるため、伝えている学校と伝えていない学校がある。検討は必要である。

	○　緊急時に子どもの状況が分かるとよい。 ⑷　インクルハブ湘南との活動について ○　インクルハブ湘南ができるメニューを学校はもらうこともあるが、学校が活動してほしい内容を具体的に伝えることも必要である。 ○　今後の協働活動がイベント的なものから日常の授業の中に落とし込んでいくことで学習活動が進められるとよい。 （ 以降、学校間交流について ） ○　金目小との連携はよく聞くが、中学や高校との連携が聞こえてこないので、取組みを検討してほしい。 ⇒　大磯高校の吹奏楽部の生徒が来校し演奏をした。その後は昼食をともにし、体育館でごく自然に遊ぶなど交流を図った。 ○　大磯高校の生徒とは関わるかもしれないが、年一回の限られた機会だけで終わるのではなく、生徒の変容につながるようなかたちで取組みをバージョンアップしてほしい。同じようなライフステージを生きる子どもたちとの繋がりを考えてほしい。 ○　服務規程上、振替休日を取れなかった場合の扱いはどのようになっているのか。民間ではお金に換えることができる。 ⇒　部活の大会への引率では振替か金銭による手当を選ぶことができるが、イベントへの参加については振替を取らせないといけないことになっている。 ⑸　その他 ○　スポーツ大会等の学校で行われるイベントに、希望する保護者は見学できるようにしてほしい。 ○　保護者が学校に対して関心を示すことができるよう、関わりを持つ機会を多用に設定するのがよい。